



報道関係者 各位

平成 27 年 7 月 24 日
横 浜 市
東京急行電鉄株式会社

8月23日(日)、『次世代郊外まちづくりフォーラム』を開催！ ～これからの暮らしのヒントとなるような、まちづくりの取組みの成果を 分かりやすく発表します～

横浜市と東京急行電鉄株式会社（以下「東急電鉄」という。）は、平成24年4月に締結した「次世代郊外まちづくり」の推進に関する協定に基づき、たまプラーザ駅北側地区（横浜市青葉区美しが丘1・2・3丁目）をモデル地区として、産・学・官・民の連携・協働による様々なまちづくり活動に取り組んでいます。

協定締結から4年目を迎えたことから、これまでの取組み成果を多くの方々と共有するとともに、さらなる推進を図るために『次世代郊外まちづくりフォーラム』（以下、「本フォーラム」という。）を開催します。

本フォーラムでは、東京大学高齢社会総合研究機構 秋山弘子特任教授と、横浜市 鈴木伸哉副市長によるトークセッションや、これまで推進してきた各リーディング・プロジェクトの取組み成果や今後の展開について発表を行います。さらに、リーディング・プロジェクトの一つとして進めてきた地域包括ケアシステム「あおばモデル」については、医療と介護の多職種連携を、事例を基にしたロールプレイ「自宅生活応援団！医療と介護のつながり」で分かりやすく紹介します。

「次世代郊外まちづくりフォーラム」の概要

○開催日時 平成27年8月23日(日) 13:00～16:00（受付開始12:00）

○会場 青葉公会堂（東急田園都市線 市が尾駅下車 徒歩10分）
所在地：横浜市青葉区市ケ尾町31番地4

○定員 500名（入場無料。事前申込不要・先着順）
※混雑状況次第では、入場を規制させていただく場合があります

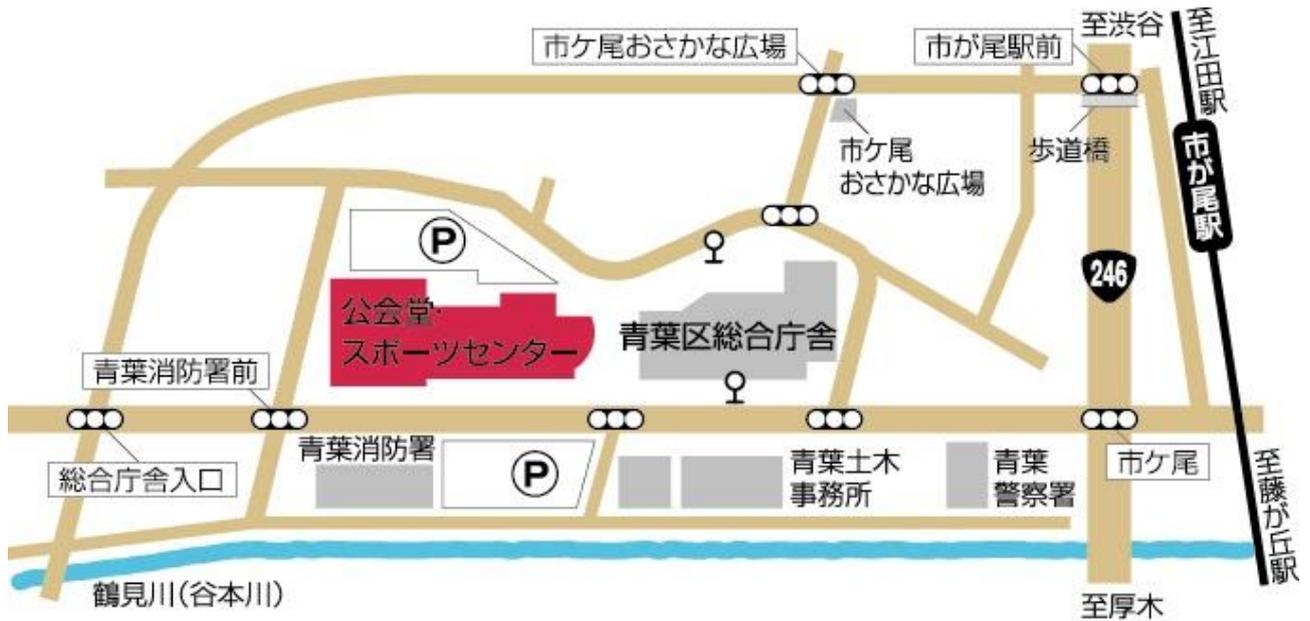
○プログラム ①トークセッション
東京大学高齢社会総合研究機構 秋山弘子特任教授
横浜市 鈴木伸哉副市長
モデレーター 東京大学まちづくり研究室 小泉秀樹教授

②自宅生活応援団！医療と介護のつながり

③次世代へつながる、新しい郊外のまちづくり

○主催 横浜市、東京急行電鉄株式会社

会場案内図



「次世代郊外まちづくり」の概要

次世代郊外まちづくりは、「既存のまちの持続、再生」を目的に、地域住民、行政、大学、民間事業者の連携・協働によって「暮らしのインフラ」と「住まい」を再構築し、少子社会、高齢社会の様々な課題を一体的に解決していくことを目指していく、従来にない参加型・課題解決型のまちづくり手法を進めるプロジェクトです。横浜市が推進している「環境未来都市計画」の主要な取組みである「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」に位置付けられています。

<次世代郊外まちづくりURL> <http://jisedaikogai.jp/>

「次世代郊外まちづくりフォーラム」のプログラムの詳細は、別紙のとおりです。



以 上

お問合せ先

横浜市 建築局住宅部住宅再生課長	大友 直樹	Tel 045-671-4543
温暖化対策統括本部環境未来都市推進課長	岩岡 敏文	Tel 045-671-2477
東京急行電鉄株式会社 社長室広報部 報道担当		Tel 03-3477-6086

【別紙】 「次世代郊外まちづくりフォーラム」プログラムの詳細

1. トークセッション

【内容】

「次世代郊外まちづくり」は、横浜市が国に選定された環境未来都市の取組みの1つにも位置づけられています。環境未来都市推進ボードの一員でもある秋山弘子特任教授と、横浜市の鈴木伸哉副市長が、産・学・官・民が連携したまちづくりの必要性や次世代郊外まちづくりに期待することについて、熱く語ります。モデレーターは、住民創発プロジェクトで講評委員として様々な場面でご活躍いただいた小泉秀樹教授です。

【登壇者】

■環境未来都市推進ボード、東京大学高齢社会総合研究機構

秋山 弘子 特任教授

<主な経歴>

イリノイ大学でPh. D (心理学) 取得、米国の国立老化研究機構 (National Institute on Aging) フェローなどを経て、現職。ジェロントロジー (老年学) を専門とし、近年は超高齢社会のニーズに対応するまちづくりにも取り組む。



■横浜市 鈴木 伸哉 副市長

<主な経歴>

東京大学工学部卒業後、横浜市へ入庁。都市計画局、建築局などの職務を通じ、一貫して都市計画やまちづくりに携わる。近年では、みなとみらい21計画や横浜駅周辺の再開発にかかわり、2012年より現職。



■モデレーター 東京大学まちづくり研究室 小泉 秀樹 教授

<主な経歴>

東京大学大学院博士課程修了、東京理科大学助手、東京大学講師・准教授を経て、2013年から現職。博士 (工学)。まちづくり、コミュニティ・デザインを専門とし、都市住宅学会論文賞ほか受賞多数。



2. 自宅生活応援団！医療と介護のつながり

【内容】

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、在宅医療・介護連携を軸とした地域包括ケアシステム〈あおばモデル〉の取組みを「次世代郊外まちづくり」のリーディング・プロジェクトの一つとして進めています。本フォーラムでは、〈あおばモデル〉について事例を元にロールプレイングで分かりやすく解説します。



劇形式によるロールプレイングの様子

3. 次世代へつながる、新しい郊外のまちづくり

【内 容】

2013年に発表した「次世代郊外まちづくり基本構想」に基づきこれまで取り組んできた、リーディング・プロジェクトの成果や「次世代郊外まちづくり」の今後の展開について発表します。

<参考> リーディング・プロジェクト（2015）

1. 地域のエリアマネジメントに向けた仕組みづくり

地域に関わる様々な組織・グループがともにまちづくりに取り組めるよう、様々な主体による活動のネットワーク化を進めます。

2. 地域のエネルギーマネジメントに向けた仕組みづくり

新エネルギーや水素などを活用した自立分散型エネルギー拠点の検討などを通じて、既成市街地でのスマートコミュニティづくりを推進します。

3. まちぐるみの保育・子育てネットワークづくり

子育てしやすいまちを目指し、保育・子育てに関わる様々な主体が連携・協働していくためのネットワーク構築を進めます。

4. 地域包括ケアシステム「あおばモデル」パイロット・プロジェクト

安心して住み続けられるまちを支える医療・介護の連携促進と情報インフラのパイロットモデル構築を進めます。

5. 住宅団地・社宅等の再生と商店街と連携したまちの賑わいづくり ー「コミュニティ・リビング」モデル・プロジェクトの実現ー

コミュニティ・リビングの実現を目指し、モデル地区内を中心に、企業社宅の再開発について民間事業者との連携・協働による取組みを進めるとともに、田園都市線沿線の住宅団地・社宅などの再生の仕組みや、空き家の流通促進や活用、商店街と連携したまちの賑わいづくりについても検討を進めます。

6. 公的資源の新たな活用の仕組みづくり ー健康・移動・教育・防災等の推進ー

公園・遊歩道を活用した「健康づくり歩行者ネットワーク」の検討や、学校との連携など、公的資源をこれまで以上に有効に活用するための新たな仕組みづくりを進めます。